

山本 かの子
大正大学 専任講師

利用者・介護者双方にとって負担感の少ない移乗方法を検証する

本研究の目的は、介護者、要介護者双方にとって、身体的負担感の小さい移乗動作を身に付けるための課題を明らかにすることである。本研究では、高齢者施設で働く介護職員の身体的負担に注目し、特に移乗動作を習得する過程について考察した。

はじめに、文献から高齢者施設で働く介護職の身体的負担、特に移乗動作に対する負担を明らかにした。また移乗動作についてテキスト等ではどのように記載されているのかを整理した。テキスト等の記載は不十分なものが多く、読み手の理解力、判断力に多くを依存しなければ適切な移乗動作の習得は困難なことが明らかになった。

次に、三次元動作分析装置を用い、移乗動作の違いによる介護者、要介護者の負担感の差を3種類の移乗動作を行い検証した。その結果、移乗動作の違いによる負担感の差異はみられなかった。このことから、別の要因によって負担間が増減するのではないかと考えられた。そこで負担感のない移乗動作を習得したいと希望する学生、現任の介護職に対してアンケート調査を行なった結果、介護者自身がイメージしている移乗動作と実際の動作とは異なっていることが明らかになった。適切な移乗技術を習得するための課題は、移乗技術の目標設定など他4つの項目があげられた。